

静岡大学イノベーション社会連携推進機構（地域連携生涯学習部門）

地域と大学

第29号

Newsletter No.29, Division of Regional Collaboration and Lifelong Learning

街の中で哲学する

農学研究科教授 竹之内 裕文

早いもので、「哲学カフェ@しぞ〜か」を立ち上げてから1年以上が経った。創設記念講演会（2013年6月29日）では、小野原雅夫氏（福島大学教授）を講師に迎え、「福島で哲学すること——てつがくカフェ@ふくしまの取り組みから」という講演をお願いした。

第1回哲学カフェ（同年8月24日）は、「自然な死とはなにか？」を討議テーマに開催した。静岡新聞での報道やFM. HI！への出演が影響したのだろうか、定員48名の会場に60名近い参加者が押し寄せ、ちょっとした混乱を招くことになった。

第2回以降の哲学カフェは、昨年度は偶数月の第4土曜日午後、今年度は偶数月の第1土曜日午後で開催してきた。初回の教訓を踏まえて広報は控えているが、それでも毎回30名を超える老若男女（10代から70代まで）が参加している。参加者の大半は静岡市と近隣都市の住民であるが、他県からの参加者もいる。

参加動機をアンケートで尋ねると、「哲学」、「討議すること」、「各回の討議テーマ」に対する関心が高い。第2回以降の討議テーマは、「日本はガラパゴス化しているか？」「子育てはだれの責任か？」「よく生きるとはどういうことか？」「日本は脱原発へと踏み出すべきか？」「幸福であるとはどういうことか？」「食べるものを選ぶとはどういうことか？」である。

討議テーマには、哲学の伝統的な問題と社会的課題が交互に並ぶ。ここには、「哲学」という営みの独特の性質が反映している。哲学のダイナミズムは、特定の対象や分野に関する学説の授受ではなく、ある問題に対する既存の〈解答〉を吟味し、問いなおすところにあるからである。端的に言えば、徹底的に問うこと、

つまり「哲学する」ことが求められるのである。そこでは「哲学者」といえども、他の参加者たちとともに問う立場におかれ、その挑戦を受けることになる。それを通して自身の前提が照らし出され、改めて哲学することを迫られる。哲学は「聴くこと」から始まるのである。

このようにカフェでの討議は、哲学という営みにとって貴重な実践の場である。それと同時に哲学カフェは、公共的な討議の場を拓く試みでもある。私たちの社会では、公共的な討議とそれを通じた社会的な合意形成が棚上げにされたまま、重要な政策が決定されてきた感がある。「討議すること」に対する参加者の関心も、ここに根ざしているのだろう。相手の「立場」や「役」を探り合い「空気」を読むことから自由になり、互いの発言に耳を傾けると、各自の前提が吟味され、視野が広げられる。また性別、年代、職業を異にする参加者たちの視点や論点とともに、身近な問題が立体的に浮かび上がる。

豊かな自然環境のもと固有な文化を育ててきた静岡



(しぞ〜か)の地にも、市民が自由に討議できる場を設け、そのネットワークを広げていきたい。私たちの哲学カフェには、そのような願いが込められている。哲学カフェ@しぞ〜かについては同名のブログとフェイスブックで情報発信し、本学ホームページでも開催を告示しているので、関心を持たれた方はぜひ参加願

いたい。次回は「自衛権を問いなおす——国を守るとはどういうことか？」を討議テーマに、10月4日(土)13:30からペガサート7階で開催する。また12月4日(土)からは会場をザ・リブレット丸井静岡店に移し、引き続き開催していく。

2014年度静岡大学公開講座が開催中です

今年度の公開講座は、下の表のとおり、4月から翌年3月にかけて多彩な12講座をお送りしています。それぞれの専門分野を生かした、特色ある講座となっています。東西に長い静岡県の地形を考慮し、静岡、浜松、

沼津など、静岡県の県内各所で開講し、静岡キャンパス、浜松キャンパスをはじめ、静岡市産学交流センター(B-nest)や沼津市民文化センターなどが会場となっています。

講座名	講師	日時	会場	対象	定員	受講料	主催
施設栽培・環境制御技術講習会 [全5回]	農学研究科准教授・切岩祥和 (株)ヒノン農業取締役社長・影山雅也 静岡県農業技術研究所野菜科科长・大石直記 ダブルエム研究所所長・狩野敦 農学研究科教授・糠谷明 (株)アームズ取締役・三倉直巳	4/16、5/7、6/4・25、7/16 (水)12:45～15:55	静岡キャンパス	一般市民	15	3,600	農
安心登山・アウトドア活動のための読図とナビゲーションスキル (初級編)	教育学部教授・村越真 オリエンテーリング日本代表・小泉成行	5/10(土)9:30～16:30	静岡キャンパス 及び屋外	登山・アウトドア活動を行う一般市民	25	3,000	教
私のミカン～ミカンの通年管理教室～ [全5回]	技術部技術専門職員・成瀬博規 技術部技術専門員・増田幸直 農学研究科准教授・八幡昌紀 技術部技術職員・周藤美希 農学研究科教授・稲垣栄洋	5/13、7/15、9/16、 11/25、3/3(火) 10:00～11:30	農学部附属 地域フィールド 科学教育研究 センター藤枝 フィールド	一般市民	10	10,000	農
体験!大学の化学実験[全3回]	グリーン科学技術研究所教授・近藤満	8/9(土)、8/10(日)、 8/23(土) 10:00～16:00	静岡キャンパス	中学生以上	30	無料	グ
遺伝子の世界を見てみよう [全2回]	グリーン科学技術研究所准教授・道羅英夫	8/27(水)10:00～ 17:00、 8/28(木)10:00～15:00	静岡キャンパス	県内高校生	20	無料	グ
食と健康を科学するII [全3回]	農学研究科准教授・茶山和敏 グリーン科学技術研究所/農学研究科 教授・河岸洋和 農学研究科教授・森田達也	9/13・20・27(土) 14:00～16:00	沼津市民文化 センター	一般市民	50	無料	イ
安心登山・アウトドア活動のための読図とナビゲーションスキル (中級編)	教育学部教授・村越真 ブロードベンチャーレーサー・宮内佐季子	9/15(月)9:30～16:30	静岡市郊外 (屋外)	過去に初級編を受講した方、又は地形図の基礎知識がある登山経験者で6km程度を歩ける方	18	4,000	教
静大キャンパス探訪～静岡キャンパスの自然と歴史～ [全4回]	静岡大学名誉教授・和田秀樹 理学研究科准教授・徳岡徹 教育学部講師・加藤英明 人文社会科学研究科教授・篠原和大	10/4・11・18・25(土) 10:00～12:00	静岡キャンパス	一般市民、学生、 小中高生(中学生 以下は保護者同伴)	20	無料	キ
児童・青年の社会的包摂を考える [全6回]	人文社会科学研究科教授・荻野達史 人文社会科学研究科准教授・白井千晶 人文社会科学研究科教授・江口昌克 NPO法人サンフォレスト代表・三森重則 人文社会科学研究科准教授・吉田崇 静岡市職員	10/14(火)、10/20 (月)、10/27(月)、11/4 (火)、11/10(月)、 11/17(月)18:30～ 20:00	静岡市産学 交流センター (B-nest)	一般市民、教育関係者、福祉・心理臨床スタッフ、行政職員など	45	1,600	人

講座名	講師	日時	会場	対象	定員	受講料	主催
米粉を食べよう! ～イネの調製・製粉教室～	農学研究科助教・浅井辰夫 農学部特任助教・飛奈宏幸 技術部技術専門職員・西川浩二 技術部技術専門職員・成瀬和子	11/1(土)9:00～12:00	農学部附属 地域フィールド 科学教育研究 センター藤枝 フィールド	小学生以上	20	600	農
情報学アラカルト講座 2014	情報学研究科教授・八柳良次郎 情報学研究科准教授・高口鉄平 情報学研究科教授・中谷広正	11/8(土)10:30～12:00	浜松キャンパス	一般市民	各 50	無料	情
トレイルランナーのためのランニ ングとナビゲーションスキル [全2回]	プロトレイルランナー・山田 高志 教育学部教授・村越 真	11/15(土)10:00～ 18:00、 11/16(日)9:00～16:00	県立朝霧野外 活動センター	ロードで5km以上を 連続して6分/kmで走 れる方	20	8,000	教

[主催欄凡例]

イ=イノベーション社会連携推進機構(地域連携生涯学習部門) 人=人文社会科学部 教=教育学部 農=農学部
情=情報学部 キ=キャンパスミュージアム グ=グリーン科学技術研究所

静岡大学創立60周年記念事業を継承した連携講座

1 静岡大学・読売新聞連続市民講座「静岡学事始め—静岡の文化・風土の成り立ちを考える—」

回	日時	タイトル	講師	参加者
1	7/5(土)	駿府大御所10年～平和時代の礎を築く～	落合偉洲(久能山東照宮博物館館長)	172
2	8/2(土)	静岡県における過去数千年間の地震・津波の履歴	北村晃寿(静岡大学大学院理学研究科教授)	188
3	9/6(土)	家康のグランドデザインと静岡	小和田哲男(静岡大学名誉教授)	—
4	10/11(土)	幕末維新と静岡の民衆	今村直樹(静岡大学人文社会科学部准教授)	—
5	11/1(土)	世界文化遺産を育んだ富士山の自然 ～三保の松原から青木ヶ原樹海まで～	増澤武弘(静岡大学理学部特任教授)	—

■会場：あざれあ(静岡県男女共同参画センター)6階大ホール

■時間：14:00～16:00

■参加費：無料

■連携先：読売新聞東京本社静岡支局

2 静岡大学・中日新聞連携講座「浜松発! 未来の社会」

回	日時	タイトル	講師	参加者
1	10/18(土)	電子技術でつくる新しい目 ～新機能イメージセンサの開発と応用～	川人祥二(静岡大学電子工学研究所教授)	—
2	11/8(土)	地球への帰還～大気圏突入環境を模擬できるレー ザープラズマ風洞の開発～	松井 信(静岡大学大学院工学研究科准教授)	—
3	12/13(土)	花も進化する ～花は分子によって環境に適応している～	渡辺修治(静岡大学創造科学技術大学院教授)	—
4	1/10(土)	新たな学び方～知識創造型の教育への転換～	大島 純(静岡大学大学院情報学研究科教授)	—
5	2/14(土)	光でがんを勝つ～低侵襲がん光治療～	平川和貴(静岡大学大学院工学研究科准教授)	—

■会場：静岡大学浜松キャンパス

■時間：14:00～16:00

■参加費：無料

■連携先：中日新聞東海本社

静岡大学と（株）エスパルスとの協働事業

静岡大学と（株）エスパルスは、2012年3月に包括連携協定を締結しました。この協定に基づき、両者が協働し、様々な連携協働事業を行っています。

1 エスパルス若手教養講座Ⅱ

本学の教員が講師となり、清水エスパルスの若手選手を対象に行う、選手が広く一般教養を涵養することを目的とした講座です。（株）エスパルスの要請に応え、2013年度から実施しています。2014年度は、次のとおり全5回の講座を予定しています。

日時	講座テーマ	講師	会場
7/16、8/27、9/24、10/29、 11/26（水）13:00～15:00	サッカーのための簡単英会話①～⑤	田村敏広（静岡大学情報学研究所准教授）	（株）エスパルスクラブハウス

2 新サッカー・ラグビー場を活用した地域貢献協働事業「SSコラボ」

静岡大学では、今春、静岡キャンパスのサッカー・ラグビー場及び浜松キャンパスの運動場の人工芝化が完了しました。これを機に、本学と（株）エスパルスは、静岡キャンパスの新しくなったサッカー・ラグビー場を活用した各種の地域貢献事業を実施しています。下記事業の他、小学生対象のサッカー大会等、数件の事業が予定されています。

■小学1・2年生対象「SSサッカー教室」（各クール全10回）

（株）エスパルスの専任コーチが指導を行い、本学サッカー部員が補助にあたります。

[第1クール] 6/6・13・20・27、7/4・11・18・25、8/8・15（金）16:45～18:00

[第2クール] 9/5・12・19・26、10/3・10・17・24・31、11/7（金）17:00～18:00

2014年度地域連携応援プロジェクト

2011年度より「地域連携応援プロジェクト」として、本学学生・教職員が主体となり、すでに地域団体や自治体等と協働で取り組んでいる、または、新たに取組もうとする地域の活性化につながる活動を学内で公募し、支援しています。2014年度は16件の応募があり、

うち13件を採択しました。

これらの取り組みにより、学生・教職員の主体的な地域連携活動が促進され、より地域と連携した静岡大学になることを期待しています。年度末には成果報告書を刊行し、学内外に広く配布する予定です。

採択したプロジェクト一覧

部局	代表者	プロジェクト名
教育学部	井出 智博	児童養護施設における学習支援の取り組み
教育学部	大塚 玲	きんもくせい土曜教室（大学と保護者と親の会の連携による発達障害児への学習支援活動）
教育学部	河村 道彦	敷地でまなび、世界をつなぐ「しきじ土曜倶楽部」支援プロジェクト
教育学部	川原崎 知洋	静岡県内の公共機関と協働する子どもたちのための造形プログラムの開発運営事業
教育学部	北山 敦康	地域の小・中学校と連携した日本伝統音楽普及のためのアウトリーチ活動
教育学部	塩田 真吾	焼津市のNPOと連携した「静岡版保護者向け情報モラルワークショップ」の開発・実践と普及
教育学部	志民 一成	遊びや体験活動を通して学びに熱中する子ども育成の場「ちびっこ寺子屋プロジェクト」

部局	代表者	プロジェクト名
教職大学院	渋江 かさね	地域をつくる社会教育事業への参加プロジェクト-シニアの教育力に学ぶ、学生の発想に学ぶ
教育学部	藤井 基貴	「リベラルアーツカフェ～静岡の教養～」によるハイブリッド型カフェプログラムの開発および実践
教職大学院	矢崎 満夫	さあ、違いを認め合える私たちのまちへ。～支援でつながる多文化共生の輪～
理学研究科	徳岡 徹	旧湯ヶ島小学校を利用した天城山周辺における自然環境資源の有効活用
附属図書館	松下 昭重	本が好きな子、集まれ!キッズチャレンジ静大図書館
技術部	大橋 和義	身近なものでScience

地域課題解決支援プロジェクト

「地域課題解決支援プロジェクト」は、地域社会が抱える課題を大学が再発見し、大学のもつ様々な資源を活かしながら地域と大学が連携し、対応策をともに考え、協働することによって課題解決を支援する事業です。大学と地域社会との新たな連携を立ち上げるべく、これまで大学との接点がなかった地域や団体も含め、広く学外から地域課題を公募し、県内全域から27件（自治体9件、社会教育施設3件、企業2件、NPO・各種団体等13件）の応募がありました。

現在、寄せられた27件の地域課題をウェブサイトにて一般公開中であり、学内では各研究室・学生とのマッチングを進めています。学内外を問わず、各課題にご協力いただける研究室・教職員・学生・その他関係機関の皆様は、当機構までご連絡ください。担当者がコーディネートいたします。

・ウェブサイト URL

http://www.lc.shizuoka.ac.jp/areastudies_index.php

・連絡先：TEL054-238-4817

E-mail：LLC@ipc.shizuoka.ac.jp

また、27件の地域課題のうち、本学が重点的に取り組む課題を、モデル事業として3件選定しました。選定は、学内外の審査委員からなるモデル事業審査委員会（6月開催）が行いました。

- ・「松崎町役場」「伊豆半島ジオパーク推進協議会」からの提案を軸とした伊豆地域の課題群【県東部地域】
- ・「三保の松原フューチャーセンター」から提案された地域課題【県中部地域】
- ・「浜松都市環境フォーラム」から提案された地域課題【県西部地域】

地域課題一覧

No.	応募団体/関連団体	現在困っていること（地域課題）について	大学に期待する支援について
1	夢の里みつかわあぐりい（袋井市）	三川地区の課題は、『三川が誇る3つの財産（農業・環境・人）をより合わせ、欲しい、行きたい、住みたい地区を創る』こと。人との絆を大切に、心通い温もりのあるまちづくりに取り組みたい。	①出会いの場の提供をし、結婚する人を増やす方策。②袋井市地域の活性化方策。③地産地消の推進のための方策。
2	御前崎市役所	御前崎市では過去の人口増加を背景に原子力関連交付金等により公共施設の整備を進めたが、少子高齢化や人口減少により公共施設のあり方が変化した。公共施設マネジメントへの取組が必要である。	①今後の当市の財政状況分析。②公共施設マネジメントの可能性及び取組手法。③公共施設の費用便益分析。
3	ユークロニア株式会社（静岡市）	県内の小中学校では睡眠不足からくる問題が顕在化している。「睡眠授業」の依頼が増えているが、研修にはマンパワーが不足。地域の課題として睡眠を整えることができる仕組み作りが必要である。	①睡眠教育の標準化や効果検証。②教育者の育成。③静岡独自の睡眠問題の調査により地域にあった生活スタイルを探る。
4	NPO 複合力（静岡市）	両河内地域の高齢化は進み、休耕農地が増えている。森林公園「やすらぎの森」は、老朽化にもかかわらず年間30万人が訪れる。脱・限界集落の手がかりを得て、地域を活性化する手立てを考えたい。	①農作物の品質を高め商品化する栽培知識技術。竹林等を伐採し循環型資源とする知識技術。②グリーンツーリズムを活性化するための知識技術。③大学生など若いマンパワーが恒常的に来園する方策。

No.	応募団体/関連団体	現在困っていること（地域課題）について	大学に期待する支援について
5	静岡市北部生涯学習センター美和分館	潜在的な利用者のニーズの把握が十分ではない。広く地域住民の生涯学習に対するニーズ把握のため調査を企画した。それにより、一層充実した学びの機会を地域に提供し、地域コミュニティ活動の推進につなげたい。	地域住民に対するアンケート調査への助言及び分析
6	静岡市立登呂博物館	リニューアルオープン後、年々来館者数が減少している。イメージ・キャラクターを使った誘客活動を行ってきたが、マンネリ状態になっている。また、多様化する来館者に対応するため、多言語仕様の資料が必要となる。	①イメージキャラクターを活用した教育普及事業の開催への支援。②登呂遺跡および登呂博物館の概要を紹介した多言語対応パンフレットの作成とHPの構築。
7	NPO法人富士川っ子の会（富士市）	子育て支援中心の活動を、今後は生涯学習の観点から事業を広めていく必要がある。当NPO、行政、企業が協働できるようなテーマで解決を図る活動を展開する。活動拠点の確保、会員の若返り施策と後継者の育成が課題。	①当団体、行政、企業との協働により、団体の若返りと活動の幅を広げ、定款に示す事業展開の具体化。②活動拠点の確保。
8	油山川のマコモを根絶する会（袋井市）	油山川では700mにわたってマコモが繁殖し、流下能力を著しく低下させ、景観上からも問題となっている。河川管理者が年に1回刈り取りを行っているが、マコモは繁殖力が旺盛で、2カ月もすると元の状態に戻ってしまう。	活動の中で、マコモは根が残っていると再生するが完全に取り出せば再生しないこと、天地返しにより根が腐り取り出せることが分かった。マコモの生態研究、根絶手法の検証で研究支援を期待する。
9	袋井市三川自治会連合会	高齢者が地域社会に飛び出せない、“生き甲斐や社会貢献”の機会が確保できない	①高齢者の意識調査。②高齢者のライフスタイルの解析。③高齢者の社会進出の仕掛けづくり。④全国での成功（失敗）事例の紹介。⑤街づくりワークショップ等への共同参加。
10	南伊豆新生機構（南伊豆町）	①未利用の土地の有効利用がされていない。②地場産業が稼働していないため人口が流出している。③人材が育っていないため外部の人材との交流がうまくできていない。④行政の協力体制がない。	①知的アドバイスの支援。②人材の支援。③資金の支援。
11	焼津市役所 総務部 政策企画課	焼津市では、高度成長期の急激な人口増を背景に公共施設の整備を進めてきたが、老朽化が進んでいる。効果的に公共施設をマネジメントしていく取組が求められている。	地域の人口推移の検証や施設の利用状況を詳細に分析し、老朽化を迎えている集会施設の複合化案について提案頂き、市民への説明、話し合いを経て、建設計画を実現可能レベルに調整
12	浮橋地域のスローフードを考える会（伊豆の国市）	中山間地の活性化	①大学生の視点から、中山間地を幅広い世代にアピールするための意見がほしい。②ワークショップを取り入れながら、地元の自然を最大限に利用し農業観光へと循環させるプランを検討してほしい。
13	株式会社アイ・クリエイティブ/ジョブトレーニング事業（静岡市）	①ニート（若年無業者）増加問題。②静岡県耕作放棄地増加問題。	①大学に望む事…ニート・ひきこもりや発達障害などの教育心理の知恵を貸してほしい。②ジョブトレーニングが提供するもの…ゼミ等の一環として参加してもらうことで実態現場+学びの場を提供する。
14	松崎町	町内にはなまこ壁を配した歴史的建造物が残されている。所有者の高齢化、維持のコスト高等で取り壊すことが多い。町の財産ではあるが個人の所有物である歴史的建造物をいかに後世に残していくべきか悩んでいる。	最小の費用で最大の効果のある維持や修繕方法を一緒に考え、古民家を利用したまちづくり手法と収益事業のアドバイスや、学生による町おこしや収益事業の模索など。
15	松崎町	町民の森「牛原山」を利活用したいが、中途半端に行政主導で整備してきたため町民の利用が少ない。眺望はよく晴れていれば展望台からは富士山も望める素晴らしい山だが、利用されない。	人が集まる仕掛けや町民が自ら維持や修繕に携われる方法を一緒に考え、里山の素晴らしさを内外に発信し、愛され利用される森にしたい。アドバイスや学生の知力、体力、気力を町おこしに活かしたい。
16	松崎町	松崎町では、ソフト、ハード両面からの防災施策が急務である。津波対策として水門の建設や防潮堤の嵩上げなど必要な事業だが、景観などの問題で全体の理解が得られない。	防災機能だけの無機質な防潮堤や水門を、どうしたら景観に配慮したデザインや機能を持たせることができるか、一緒に考えてほしい。

No.	応募団体/関連団体	現在困っていること（地域課題）について	大学に期待する支援について
17	松崎町	過疎化・少子高齢化により当町も御多分に漏れず耕作放棄地が急増してきている。このままでは町内の農地が荒地だらけになり、今年度加盟を認められた「日本で最も美しい村」連合に恥ずかしい姿をさらしかねない。	耕作放棄地の解消だけでなく、永続的に利活用し続けることができる仕掛けづくりを期待する。当町での有効な作物の選別や耕作方法の指導、学生による農業体験事業化などでの協力がほしい。
18	松崎町商工会	松崎町の中心市街地である商店街が過疎化・少子高齢化によりどんどん寂れている。このままではゴーストタウン化してしまう。現在でも転居し、空き地になるところが後を絶たない。空き店舗も多く、シャッター商店街になりつつある。	商店街の魅力発掘と、買い物弱者の高齢者への商店街への買い物支援法。商店街のアート誘致、コミュニティ公園化について助言がほしい。全体的なデザインについても関わってほしい。
19	浜松都市環境フォーラム（浜松市）	浜松市はマイカーに依存した都市となっている。深刻な渋滞問題が予測され抜本的な交通対策が急務である。工業都市として発展してきた浜松が、今後も持続的に発展していくには観光・文化都市としてのまちづくりが必要となる。	持続可能な都市づくりは、行政・民間が扱いにくい空白の分野で、大学の持つ知的・人的資源を活用して研究する価値が高く、実現を前提に「特区」の認定を受けられるような研究を期待したい。
20	伊豆半島ジオパーク推進協議会	伊豆半島ジオパークの進捗を判断する評価指標や調査方法の不足。貴重な資源の保全、教育、防災、地域振興等、様々な分野での取組があるが、活動の検証とフィードバックが難しい。	伊豆半島ジオパークの活動の進捗状況を把握し、フィードバックするのにどのような調査や指標が適当なのか、大学の知的、人的資源を活かした、モデル調査の実施、各種資料の収集と分析等。
21	三保の松原フューチャーセンター（静岡市）	①三保の松原の保全。②三保の魅力を知り、次世代へ伝えていく仕組みづくり。③三保住民の安全な生活環境の確保。三保で活動している団体は数多く存在するが、横の連携が取れておらず、協働できるきっかけがほしい。	①耕作放棄地を活用し、三保自生の松から植樹用の松を育て商品化するための支援。②子供や住民が気軽に参加できるイベントを開催し、地域の関わりを強化するための支援。
22	焼津市市民活動交流センター運営協議会	焼津市内には市民団体が数多くあるが、団体相互の交流が少なく、協働もできていない。焼津市の抱える様々な問題に行政、企業、市民が協働して解決策を模索するようになれば、もっと良いまちになると思われる。	市民活動の実態を知り、その活動を直接・間接に支援できる人材育成を依頼したい。センターへの支援として、情報発信能力の強化、交流会の企画立案・市民が参加しやすい方法論の検討などがある。
23	静岡市生涯学習センター	①「生涯学習」の学習格差の解消 ②「生涯学習」に興味・関心がない地域住民に「生涯学習」に取り組んでいただけるよう支援していく。	①地域の現状調査の一連の事業の中で、調査方法や課題解消への取組方法、評価方法へのアドバイスがほしい。②大学生等の若年層の認知を高める手法を開発、事業実施をする。
24	伊豆を愛する会（南伊豆町）	ジオサイト候補地の里山を所有しているが、安全面の不安を理由に、南伊豆町観光協会と行政は消極的である。これまで500名以上の方が問題なく見学しており、地域の不安を取り除くために力を貸してほしい。	①岩石構造専門家の派遣をお願いしたい。②石切り場には、昔の人が文字を掘った跡が何箇所もあり、解明されていないことも多く、歴史文化の専門家の派遣をお願いしたい。
25	静岡県／松崎町	①棚田保全・活用一石部地区の棚田を保全するとともに活用を検討。②特産品を活用して加工品づくりと販路拡大までを検討。③伝統芸能保存。④大学と地域のネットワーク化。	①既存のつながりでは生み出されていない部分の開拓に期待。②新しい視点で工夫を加えた加工品を開発してほしい。③継続的課題解決活動に取り組み、地元との連携を築いてほしい。
26	静岡県／東伊豆町	①エコタウンとしての売り出しに向けたガイドシステムの研究。②地域づくりインターンとしての学生の参加。③オリーブの里づくりへの大学の参画。	①エコ資源の活用方法の提案。②従来より長期的な関わりが可能な大学生の派遣と長期的な関わりを求め。③オリーブの栽培の可能性について、植樹の段階からの研究を希望。
27	静岡県／南伊豆町	①竹の子振興方策の検討一産地化に取り組んでいるが、竹林の利活用についての研究が必要。②過疎地域における公共交通サービスの在り方の検討が課題。	①従来と異なる新たな竹の子の活用策の提案に期待。②集落が分散し、主要道路周辺のみを運行するのではカバーしきれない公共交通網維持の問題の検討に期待。

2014年度上半期（4月～8月）の事業報告

主催事業

地域連携応援プロジェクト 成果報告／公募説明会

2014年度「地域連携応援プロジェクト」の公募に際し、前年度のプロジェクトの成果報告会を開催しました。

- ・日時：2014年5月9日（金）13:00～14:45
- ・会場：[静岡会場] 静岡大学静岡キャンパス事務局別館1A会議室、[浜松会場] 静岡大学浜松キャンパスイノベーション社会連携推進機構棟1階カンファレンスルーム ※遠隔テレビシステムで2会場を結んで実施。
- ・プログラム：
 - ①「学生ボランティアによる「多文化共生のためのつながりづくり」プロジェクト」プロジェクト代表者：矢崎満夫（静岡大学教職大学院准教授）
 - ②「静岡STEMジュニアプロジェクト「サマーSTEMキャンプ」」プロジェクト代表者：熊野善介（静岡大学教育学部教授）
 - ③「体験型複合的理数教育プログラム「三本の矢」による理系人材の発掘と育成事業」プロジェクト代表者：瓜谷眞裕（静岡大学理学研究科教授）
- ・参加者数：27人
- ・参加費：無料

公開セミナー 「学んで楽しい！～大学で学ぼう～」

知的障害のある人が、学校卒業後も生涯学習の機会を持ち、より豊かな人生を送ることができることを目的に、「学んで楽しい！」と題する公開セミナーを実施しました。知的障害のある人にとっても、学び続ける機会があることで、社会参加の幅が広がり、人生をより豊かにすることができます。ボランティアの方々も含めたくさんの方々に参加いただきました。

- ・日時：2014年6月22日（日）9:15～12:15
- ・プログラム：

[演習]「アイスブレイク～学びのなかま～」講師：大畑智里（静岡県立静岡北特別支援学校教諭、学校心理士）

[講義①]「最近の犯罪傾向と防犯」講師：小林哲也（静岡県警静岡南警察署生活安全課）

[講義②]「“宇宙”で働く機械たち～人工衛星と宇宙

探査機～」講師：内山秀樹（静岡大学教育学部理科学部教育講座講師）

- ・参加費：無料
- ・参加者数：127人
- ・会場：静岡大学学生会館3Fホール
- ・企画：静岡県知的障害者就労研究会

その他の地域連携事業

支援事業 「哲学カフェ@しぞ～か」

「哲学カフェ@しぞ～か」とは、コーヒー等の飲み物を楽しみながら、一般市民・学生を含む性別、年代、職業を異にする参加者が、立場を超えて、日常抱くさまざまな疑問について討議を行うものです。

- ・日時：2014年4月5日、6月7日、8月2日（土）13:30～17:00
- ・討議テーマ（参加者数）：
 - ①4/5 「日本は脱原発へと踏み出すべきか」（34人）
 - ②6/7 「幸福であるとはどういうことか」（37人）
 - ③8/2 「食べるものを選ぶとはどういうことか?」（35人）
- ・参加費：無料
- ・会場：静岡市産学交流センター（B-nest）

市民開放授業

静岡大学市民開放授業は、静岡大学の学生が受講している正規の科目を、一般市民の方に開放するものです。2014年度の前学期・通年の開講科目数・受講者数の状況は下表のとおりです。

開講科目数			受講者数		
静岡キャンパス	浜松キャンパス	合計	静岡キャンパス	浜松キャンパス	合計
138	23	161	175	26	201

地域と大学 第29号

発行日——2014年8月29日
 発行——静岡大学イノベーション社会連携推進機構
 （地域連携生涯学習部門）
 〒422-8529 静岡市駿河区大谷836
 （事務局別館2階）
 TEL: 054-238-4817 FAX: 054-238-4295
 E-mail: LLC@ipc.shizuoka.ac.jp
 URL: www.lc.shizuoka.ac.jp/
 （事務局）学術情報部研究協力課 ☎054-238-4317